



何をデザインするかより、 デザインで何をするかだ。

およそありとあらゆるものをデザインしてきたデザイナーが立ち止まって考えます。生産と消費の経済活動の中で企業とマスマーケットの需要に応えながら、デザインは課題解決だと自分を言い聞かせてきたけれど、実はデザインという専門職を生き永らえさせるために、解くべき課題を探し回り、挙句の果てに問題そのものを作り出してきたのではないかと自分に問います。その連鎖の渦のような都会を離れて森の中で暮らしてみると、これまで気つかなかつた多くの相談を受けるのです。地元の職人たちも、アジアの人々も、親を駆除されたうり坊も、放置された竹林の孟宗竹もみんな困っているのです。

講演会
サステナブルデザイン領域
1月14日(火) 17:40~19:10
金沢美術工芸大学 視聴覚教室

【お問い合わせ】 金沢美術工芸大学 製品デザイン専攻 安島研究室

益田文和

金沢美術工芸大学 客員教授
株式会社オープンハウス 代表取締役

1973年東京造形大学デザイン学科卒業後、建設会社、デザインオフィスを経て、1978年以降フリーのデザイナーとして家電をはじめとする様々な製品のデザイン開発や地域産業のデザイン振興に関わる。frog design(ドイツ)を経て株式会社オープンハウス設立。1990年代初頭からエコデザインの活動を開始し、2006年から2016年まで毎年サステナブルデザイン国際会議を主催。東京造形大学デザイン学科教授（インダストリアルデザイン／サステナブルプロジェクト）を退職後、活動拠点を東京都心から山口県に移転し、国内外、特にアジア各国でサステナブルデザインのプロジェクトを手掛けている。グッドデザイン賞審査委員を22年間務め、現在は環境省グッドライフアワード実行委員長、キッズデザイン賞審査委員長、IAUD国際デザイン賞及びグッドデザイン賞審査委員など。

